

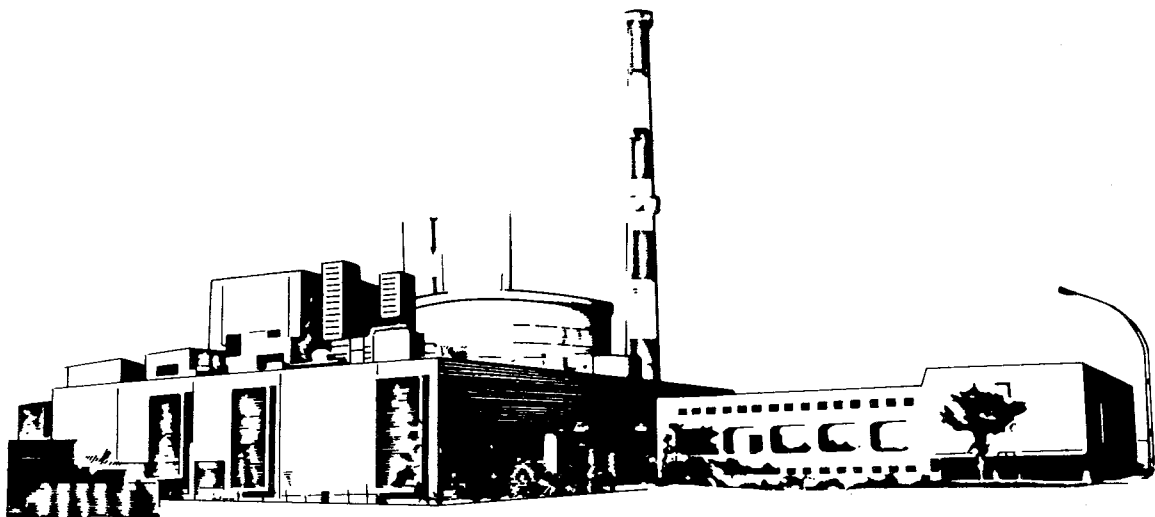


本資料は 年 月 日付けで
登録区分変更する。 [技術展開部技術協力課]

高 速 実 験 炉 「 常 陽 」

プラント管理月報

1981年7月分



動力炉・核燃料開発事業団

この資料は動燃事業団の開発業務を進めるため限られた関係者だけに配布するものです。したがってその取扱いには充分注意を払って下さい。なお、この資料の供覧、複製、転載、引用等には事業団の承認が必要です。



高 速 実 験 炉「常 陽」 プ ラ ン ト 管 理 月 報

目 次

第 1 章	常陽の概要	1
1.1	常陽の経過	1
1.2	月間運転実績工程およびプラント状態表	1
第 2 章	系統の運転	5
2.1	原子炉および制御系	5
2.2	冷 却 系	5
2.3	純 化 系	5
2.4	燃料取扱系	6
2.5	その他の系統	6
第 3 章	放射線管理	7
3.1	放射性廃棄物	7
3.2	管理区域内作業状況	7
3.3	一時管理区域等の設定	7
3.4	作業環境の放射線	7
3.5	個人被曝管理	7
3.6	放射性物質等の移動	7
3.7	環境管理測定結果	7
第 4 章	保 守	17
4.1	概 況	17
4.2	定期検査	17
4.3	点 検	17
4.4	修理依頼票, 異常等報告書	18
4.5	保修報告書	20
4.6	ナトリウム機器の洗浄	20
第 5 章	燃料管理	21
5.1	概 要	21
5.2	燃料移動	21
5.3	在 庫 量	21
第 6 章	技術開発	23

6.1	特性試験	23
6.2	サーベインランス試験	23
6.3	照射試験	23
6.4	保守技術の開発	24
6.5	運転技術の開発	24
第7章	工 事	25
7.1	主要工事の概要	25
7.2	原子炉規制法関係	25
7.3	改造計画書・改造報告書	27
第8章	技術資料	29
8.1	技術報告書	29
8.2	運転データ	29

第1章 常陽の概要

1.1 常陽の経過

今月も75MW第5サイクル運転が継続していたが1日10時09分に主送風機トリップにより原子炉容器入口温度高となり、計画外の調整棒一斉挿入にて原子炉を停止した。プラントに異常無いこと確認後、19時00分に原子炉の運転を再開し、20時08分に臨界に達した。その後7月2日8時19分に75MWに到達した。以後75MW出力保持運転を継続していたが、26日12時01分にオーバーフロー電磁ポンプトリップにより、原子炉は再び計画外の調整棒一斉挿入で停止した。さらに炉容器液面低下により一次ポンプトリップ、ポニーモータ運転および補助系電磁ポンプ自動起動が起ったが、プラントに異常はなかった。その後27日20時00分に再び原子炉の起動を開始し、21時57分に臨界となり、その後28日10時57分に75MW到達、以後75MW出力保持運転を継続した。今月実施した、試験および測定は次の通りである。

- 原子炉保護系作動試験 7/8 ~ 7/10
- 原子炉熱出力校正 7/1, 7/7, 7/14, 7/28
- A/C空気側, 最大除熱量確認試験 7/29
- 炉雑音測定 7/21, 7/29, 7/31
- 制御棒振動試験 7/31
- 空間線量率測定 7/1, 7/15, 7/22, 7/31

今月実施したおもな点検および改造工事は次の通りである。

- S/F貯蔵設備点検 7/6~7/11, 7/13~7/17, 7/20~7/24
- ゲートモニター点検 7/1~7/3, 7/6~7/11, 7/13~7/24
- MK-II受入装置改造工事 7/16~7/17, 7/20~7/24

今月の炉心構成要素の移送作業はなかった。

今月の原子炉起動回数, 最大出力, 運転時間等は次の通りである。

原子炉起動回数	2回
最大原子炉出力	75MW
積算原子炉出力 (当月積算)	5.9093 × 10 ⁵ WMH) 50772 MWH)
積算原子炉運転時間 (当月積算)	11663.36 時間 (700 時間)

1.2 月間運転実績工程およびプラント状態表

本月の運転実績およびプラント状態は、表1-1、表1-2に示すとおりである。また、75MW定格第5サイクル時の炉心構成図1-1に示す。

表 1-1 高速実験炉「常陽」実績工程表 (S.56.7)

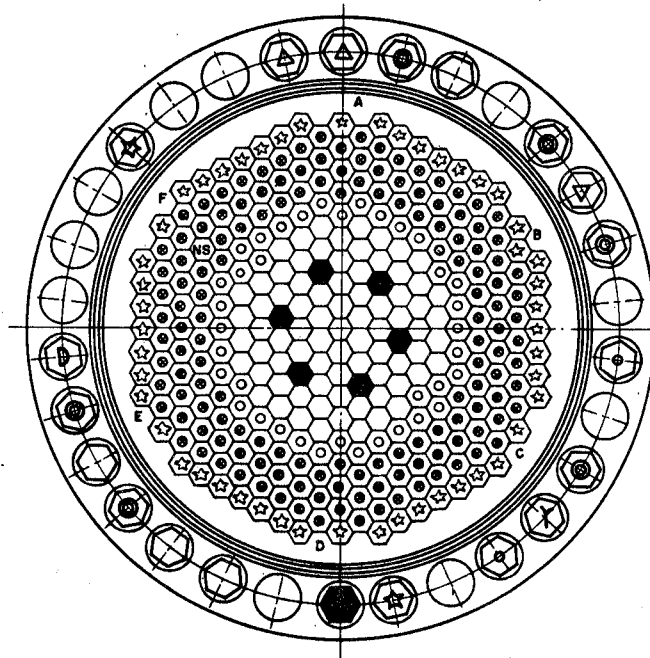
年月日		S・56・7																																		
項目	1	2	3	④	⑤	6	7	8	9	10	11	⑫	13	14	15	16	17	⑱	⑲	20	21	22	23	24	25	⑳	27	28	29	30	31					
特記事項																						科技厅 IAFA 査察														
運転保守 試験																																				

表 1-2 高速実験炉「常陽」プラント状態表 (S.56.7)

年月日 項目	S. 56. 7																														
	1	2	3	④	⑤	6	7	8	9	10	11	⑫	⑬	14	15	16	17	⑱	⑲	20	21	22	23	24	25	⑳	27	28	29	30	31
主要工程	75MW第5サイクル 熱出力校正 燃焼係数測定 原子炉保護作動試験 空間線量率測定 調整棒一斉挿入 調整棒一斉挿入 炉雑音測定 最大除熱量 空間線量率測定 制御棒振動試験																														
原子炉出力	調整棒一斉挿入 核加熱臨界 75 MW 75 MW																														
炉内状況	炉液位 GL-6100 75 MW-5 炉心 (78 本炉心) GL-6200 停止 核加熱臨界																														
主1次系流量	100%																														
主1次系炉出口温度	R/V 出口温度 468°C																														
主1次系炉入口温度	R/V 入口温度 370°C																														
主2次系流量	100%																														
主冷却器入口温度	A/C 入口温度 433°C																														
主冷却器出口温度	A/C 出口温度 343°C																														
出口ダンパ	100%																														
入口ダンパ	100%																														
入ベーン	38%																														
ブロー	ON																														
冷却系統 (A 系統)	OFF																														
主冷却器	250°C 250°C 468°C 370°C 250°C 250°C 433°C 343°C 100% 100% 38% 0% 0% 0% OFF																														

炉 心 構 成 図

基準方位 (T・R・側)



- | | | | |
|--|---------------------------|--|--------------------|
| | 燃 料 集 合 体 | | 中 性 子 源 |
| | 制 御 棒 | | ダ ミ ー 要 素 |
| | 内 側 プ ラ ン ケ ッ ト 燃 料 集 合 体 | | サ ー ベ イ ラ ン ス |
| | 外 側 プ ラ ン ケ ッ ト 燃 料 集 合 体 | | 特 殊 燃 料 集 合 体 |
| | 反 射 体 | | γ 線 源 収 納 体 |

炉 心 構 成		
構 成 要 素 名	員 数	
炉 心 燃 料	78	
プ ラ ン ケ ッ ト	内 側	外 側
	37	143
制 御 棒	調 整 棒	安 全 棒
	2	4
反 射 体	ス リ ッ ト 有	ス リ ッ ト 無
	12	36
中 性 子 源	1	

図1 75MW定格第5サイクル(1981. 6. 16~1981. 8. 9)

第2章 系統の運転

2.1 原子炉および制御系

原子炉は6月より引き続き75MW第5サイクルの運転を継続した。1日は、10時07分、主送風機トリップにより、原子炉容器入口温度高にて調整棒一斉挿入し原子炉は停止した。その後原子炉は、その日のうちの20時08分に臨界にし75MWまで出力上昇し引き続き第5サイクルの運転を継続した。2日～7日は熱出力校正を行った。8日～9日は保護作動試験を行った。26日は12時01分、オーバーフローポンプトリップにより、調整棒一斉挿入となり、さらに原子炉容器液面低低により一次主循環ポンプトリップ及びスクラムにて原子炉は自動停止した。その後、原子炉は、27日の21時57分に臨界にし75MWまで出力上昇し第5サイクルの運転を継続した。

2.2 冷却系

1次系流量100%、原子炉入口/出口温度370/468℃、2次系流量100%、主冷却器入口温度433/340℃、同出口温度445/358℃で運転された。1日の計画外停止の際は流量100%、1次・2次系Na温度は約320℃に保たれた。また、26日の停止の際は1次系流量約20%とし系統温度約250℃に降温し27日に原子炉運転状態に戻った。29日に主冷却器最大除熱量確認試験のため原子炉入口温度をAループ380℃、Bループ360℃、主冷却器入口温度440/450℃とした。主冷却器入口温度はAループ440℃、Bループ450℃とし、同出口温度は1B冷却器を除熱量100%とするために1A・2A出口353℃、1B出口323℃、2B出口363℃とした。

2.3 純化系

1次Na純化系は、コールドトラップの圧損回復操作のための純化流量及びコールドトラップ設定温度の変更操作の時期を除き純化系流量が9m³/hrコールドトラップ設定温度が120℃の一定運転であった。今月のコールドトラップ圧損は若干高目の状態であり、圧損回復操作を行うにも拘らず効果はなく通状運転状態に変更後も緩慢な上昇がみられた。2次Na純化系は純化流量が4m³/hrコールドトラップ設定温度が120℃の一定運転であった。今月の各系統のプラグング温度は下表の通りであった。

	プラグング温度
1次系	140℃以下
2次系	123～130℃
2次補助系	125～133℃

2.4 燃料取扱系

原子炉第5サイクル運転中につき炉心構成作業は無かった。工事並びに点検作業についてはキスクカーグリッパ駆動装置の改造工事を6月一杯実施し、30日局立合検査のリハーサルを実施、結果良好であった。使用済燃料貯蔵設備自主点検作業は6日から開始され、52日に終了した。また点検終了に伴い水中台車側プールに水張りを行い、29、30日に仕切水門扉の撤去を行った。つかみ部洗浄設備弁の点検については27・28・29日にて実施した。また、月例点検項目として以下の設備について実施した燃料交換機、燃料出入機、回転プラグ、トランスファーロータ、使用済燃料貯蔵、水処理、使用済燃料洗浄、新燃料貯蔵設備、その他の作業として模擬制御棒（キャスカー取合試験にて用いた物）の缶詰作業を27日に実施した。定例運転として水冷却浄化設備の運転を1・14日に実施し、回転プラグ温度設定については炉運転中経統的に実施した。

2.5 その他の系統

格納容器雰囲気調整系は、通常状態（床下／床上雰囲気： N_2 ／AIR）での自動圧力制御（床下／床上設定圧力：15 mmAq/10 mmAq）による連続運転が行われ、床下酸素濃度は、4%以下に制御された。なお、通常運転状態において微かに酸素濃度の上昇がみられたが窒素ガス供給バイパス弁を手動で開閉操作することにより対処した。7月20日の瞬時停電時、フロン冷凍機（A）がトリップし再起動まで30分を要した。7月22日には、ベーンコントロールが不調となった事によりフロン冷凍機（B）に切替えた。フロン冷凍機（A）は、直ちに修理され、その後予備機として待機状態にある。コンクリート遮蔽体冷却系ブロワ、窒素ガス再循環ブロワの主要機器を含み、その他の機器は順調に運転を継続した。今月の液体 N_2 及びArの受入量と空調系、補機系の給水量は下記の通りである。

液体窒素	46348 kg
液体アルゴン	4090 kg
空調系給水量	1053 m ³
補機系給水量	1513 m ³

第3章 放射線管理

概 要

今月は、75MW第5サイクル運転が継続され、又各設備の点検調整等が行なわれた。これに伴う管理区域内の空間線量率分布、放射性物質濃度、表面汚染密度等の管理測定を実施したが、特に異常は認められなかった。

3.1 放射性廃棄物

(1) 排気および排水

排気（総排気量： $1.0 \times 10^8 \text{ m}^3$ ）については検出感度未満（排気放出量： $0 \mu\text{Ci}$ であった。排水（一般排水）はなかった。なお、燃料及び機器等の洗浄廃液（廃液量： 48 m^3 放射性物質 $19218.0 \mu\text{Ci}$ ($\beta\gamma$), $11.0 \mu\text{Ci}$ (α)は原研廃棄物処理場へ廃液輸送管で移送された。

(2) 固体廃棄物

$B\gamma$ 低レベル固体廃棄物（カートンボックス可燃：62 不燃：96 ドラム缶：14）を廃棄物処理建家に運搬し、一時保管した。

3.2 管理区域内作業状況

管理区域内作業計画書一覧を表3-1に示す。

3.3 一時管理区域の設定

該当なし。

3.4 作業環境の放射線

異常は認められなかった。

3.5 個人被曝管理

従事者及び随時立入者の全身被曝線量分布については昭和56年4～6月分を表3-2、表3-3に示す。一時立入者等の被曝線量については表3-4に示す。

3.6 放射性物質等の移動

1次系Na 試料（1件）、1次系Ar 試料（2件）をNa分析棟へ搬出した。

3.7 環境管理測定結果

大洗地区環境評価委員会による昭和56年4月～6月分の環境管理測定結果を表3-5に示す。

表 3 - 1 管理区域内作業計画一覧

昭和56年 7月

作 業 名	作 業 場 所	作 業 時 間	作 業 担 当 課
燃料取扱用キャスクカーグリッパー駆動装置改造	A-510	6/15~8/22	原子炉第1課
ナトリウムドリップパン洗浄	R-411, M-301	6/26~7/1	"
使用済燃料貯蔵設備点検作業	A 511 A, 511 B	7/6~28	"
低レベル廃液サンプリング	A-106	7/20	"
燃料洗浄設備Arガス循環プロアA号点検	A-212	7/20~25	"
燃料取扱用キャスクカードアバルブ分解点検	A-510	7/21~27	"
燃料つかみ部洗浄設備弁点検	R-411	7/27~28	"
回転プラグブースタプロア点検	炉上部ピット	7/23	"
燃取・総点検	A-511, 511A, 512B, 211, 212	7/27~8/12	"
JoYoプレシピテーターバックグラウンド低減化対策基礎データ採取	F D室 (R-407)	7/27~8/3	"
燃料洗浄設備弁名板取付	A-211, 212, 308	7/29~30	"
水冷却池水門扉の移送及び撤去	A-511A, 511B	7/30~31	"
炉上部ピット蓋及強化遮蔽体取付, 取外し作業	R-501	5/8~8/7	原子炉第2課
付属空調系パッケージエアコンドレン配管改造	A510, 516, 311	6/26~7/3	"
" 温度検出器交換	燃料洗浄室	7/7~9	"
廃ガスコンプレッサー点検	A-108, 112, 113	6/29~7/3	"
PP強化扉制御装置取付工事	A-518	7/6~17	"
付属空調系ファン点検	A-311	7/14~15	"
アルコール廃液処理装置	A-104, 106	7/27	"
廃液処理系廃液ドレン手配管漏洩検査	屋外トレンチ	7/28	"
MK-II燃料受入装置据付工事	A-513, 514	7/1~30	照 射 課
MK-I新燃料の線源強度測定	新燃料検査貯蔵室	7/23	"
高周波加熱炉調整	IRAF 建家	7/20~25	"
IRAF 20 t/2 t クレーン歩廊工事	"	7/21~31	"
MK-II新燃料受入装置機能試験準備作業	IRAF建家トラックヤード 付属建家内新燃料貯蔵室	7/21	"
照射設備内装品取付工事	IRAF 建家	7/21~27~31	"
照射リーブ組立	照射装置組立検査	7/21~22	"
溶接機電流計取付作業	IRAF 建家	7/24~28	"
火災報知機増設工事	IRAF	7/23~31	照 射 課
炉心燃量集合体構内輸送作業	原子炉付属建家, IRAF A513, 514	7/28~8/4	"

表 3 - 1 管理区域内作業計画一覧

昭和 56年 7月

作 業 名	作 業 場 所	作 業 時 間	作 業 担 当 課
蒸発缶試験片取付作業	処理建家, 蒸発缶室	7 / 10	廃棄物処理課
呼吸防護具点検	管理区域全域	7 / 15~17	放射線管理課
1次カバーガス真空ポンプ室r線エリアモニタの状況調査	A-202, 204, 205	7 / 28~30	〃
空間線量率測定	管理区域全域		〃

表 3 - 2 従事者全身被曝線量分布

昭和 56 年 4, 5, 6 月

所 属		被ばく線量 (rem)	対象 人数 (人)	X (人)	0.01以	0.13以	0.4以上	1.3以上	3.0	総被ば く線量 (man· rem)	平均被 ばく線 量 (rem)	最大被 ばく線 量 (rem)
					上 0.13 未満 (人)	上 0.4 未満 (人)	1.3未満 (人)	3.0未満 (人)	以上 (人)			
実験炉部	職 員		2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計		2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
管 理 課	職 員		4	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者		7	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計		11	11	0	0	0	0	0	0	0	0
一 課	職 員		53	53	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者		72	64	8	0	0	0	0	0.09	0	20
	合 計		125	117	8	0	0	0	0	0.09	0	20
二 課	職 員		24	24	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者		33	31	2	0	0	0	0	0.02	0	10
	合 計		57	55	2	0	0	0	0	0.02	0	10
技 術 課	職 員		20	16	4	0	0	0	0	0.04	0	10
	業 者		2	1	1	0	0	0	0	0.01	0.01	10
	合 計		22	17	5	0	0	0	0	0.05	0	10
照 射 課	職 員		14	14	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者		11	11	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計		25	25	0	0	0	0	0	0	0	0
(安管部) 放射線管理課	職 員		9	5	4	0	0	0	0	0.04	0	0.01
	業 者		2	0	2	0	0	0	0	0.02	0.01	0.01
	合 計		11	5	6	0	0	0	0	0.06	0.01	0.01
廃棄物処理課	職 員		5	3	2	0	0	0	0	0.03	0.01	0.02
	業 者		5	0	5	0	0	0	0	0.09	0.02	0.02
	合 計		10	3	7	0	0	0	0	0.12	0.01	0.02
工 務 課	職 員		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者		7	6	1	0	0	0	0	0.01	0	10
	合 計		7	6	1	0	0	0	0	0.01	0	10
総 務 課	職 員		0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者		4	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計		4	4	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	職 員		131	121	10	0	0	0	0	0.11	0	0.02
	業 者		143	124	19	0	0	0	0	0.24	0	0.02
	合 計		274	245	29	0	0	0	0	0.35	0	0.02

表 3 - 3 随時立入者全身被曝線量分布

昭和56年4, 5, 6月

所 属	被ばく線量 (rem)	対数 人数 (人)	X (人)	0.01以	0.13以	0.4以	1.3以	3.0	被ばく 線量 (man· rem)	平均被 ばく線 量 (rem)	最大被 ばく線 量 (rem)
				上0.13 未満 (人)	上0.4 未満 (人)	上1.3 未満 (人)	以上 3.0 (人)	以上			
原子炉一課	職 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者	30	29	1	0	0	0	0	0.01	0	0.01
	合 計	30	29	1	0	0	0	0	0.01	0	0.01
原子炉二課	職 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者	46	46	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	46	46	0	0	0	0	0	0	0	0
技 術 課	職 員	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
照 射 課	職 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
処 理 課	職 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者	9	8	1	0	0	0	0	0.01	0	0.01
	合 計	9	8	1	0	0	0	0	0.01	0	0.01
放 管 課	職 員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
計	職 員	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	業 者	89	87	2	0	0	0	0	0.02	0	0.01
	合 計	91	89	2	0	0	0	0	0.02	0	0.01

表 3 - 4 一時立入者等の被曝線量

昭和56年7月

管理区域内 立入者区分	延人数	被 曝 者 数 (人)			最高被曝 線量 (ミリレム)	備 考
		検出限界 未 満	10ミリレム以上 30ミリレム未満	30ミリレム以上		
一時立入者	54	54	0	0		
見学者等	235	235	0	0		
合 計	289	289	0	0		

表3-5 大洗地区環境監視測定結果

(昭和56年度4,5,6月)

1. 空間線量(率)

記録 昭和56年7月20日
大洗地区環境評価委員会

項目	測定月 機器名等		4月		5月		6月		備考
			平均	最大	平均	最大	平均	最大	
空間線量率	ポスト ($\mu\text{R}/\text{h}$)	No.1	10	10	10	10	10	10	
		No.2	10	10	10	10	10	10	
		No.3	10	10	10	10	10	10	
		No.4	10	10	10	10	10	10	
		No.5	10	10	10	10	10	10	
		No.6	10	10	10	10	10	10	
		No.7	10	10	10	10	10	10	
		No.8	10	10	10	10	10	10	
		No.9	10	10	10	10	10	10	
		No.10	10	10	10	10	10	10	
		No.11	10	10	10	10	10	10	
		No.12	10	10	10	10	10	10	
		No.13	10	10	10	10	10	10	
		No.14	10	10	10	10	10	10	
		No.15	10	10	10	10	10	10	
		No.16	10	10	10	10	10	10	
	ステーション ($\mu\text{R}/\text{h}$)	No.1	3	6	3	5	3	5	
		No.2	3	6	3	5	3	4	
	定點サーベイ測定日 4月23日 ($\mu\text{R}/\text{h}$)	測定地点		測定値		測定地点		測定値	
飛沢入口		3.2		外周道路(B地点)		2.9			
旭村中学校		3.3		大場小学校		4.2			
上鹿田称念寺		4.9		田村学園		3.0			
大谷川神護教会		4.0		大洗神社		4.0			
大洗町旧陣屋		3.2		原研厚生ハウス		3.0			
外周道路(A地点)		3.8		動燃グランド		3.2			
積算線量	TLD 測定期間 自3月18日 至6月18日 (92日間) (mR)	測定点	測定値	測定点	測定値	測定点	測定値	クロス(大洗南中学校) チェック 原研 8 動燃 8	
		No.1	10	No.11	8	No.21	9		
		No.2	10	No.12	10	No.22	9		
		No.3	9	No.13	12	No.23	9		
		No.4	10	No.14	10	No.24	9		
		No.5	10	No.15	8	No.25	8		
		No.6	10	No.16	8	No.26	8		
		No.7	9	No.17	10	No.27	8		
		No.8	10	No.18	8	No.28	7		
		No.9	10	No.19	8	No.29	7		
		No.10	9	No.20	9	No.30	7		

2. 全β放射能測定結果

項目	試料名		4月	5月	6月	3ヶ月平均
			平均	平均	平均	
大気	ステーション No.1	$(10^{-14}\mu\text{Ci}/\text{cm}^3)$	19	13	5.2	12.4
	ステーション No.2		19	13	6.0	12.7
	ステーション No.3	$(10^{-12}\mu\text{Ci}/\text{cm}^3)$	9.5	4.9	2.2	5.5
	降下塵	(mCi/km^2)	4月	5月	6月	
			10.2	6.9	4.5	
備考						
陸	試料名		採取月日	測定値	備考	
	水	夏海湖水	$(\mu\text{Ci}/\text{cm}^3)$	4.7	2.5×10^{-9}	
瀬沼湖水		4.7		0.6×10^{-9}		
原研水道原水		5.12		4.5×10^{-9}		
町営水道原水		5.12		4.3×10^{-9}		
北松川水道水		4.7		4.5×10^{-9}		
北松川井戸水		5.12		13.5×10^{-9}		
土壌	海岸放出口	$(\text{pCi}/\text{g} \cdot \text{乾})$				
	処理場		5.12	11		
	日中内		5.12	13		
	下太田		5.12	16		
	飛沢		5.14	11		
農畜産物	精米	$(\text{pCi}/\text{g} \cdot \text{生})$				
	野菜(ホーレン草)		4.30	3		
	松葉(動燃構内)		4.7	4		
	牛乳		4.16	1		
海	海水	L海域	$(\mu\text{Ci}/\text{cm}^3)$	4.23	7.0×10^{-10}	(注) 試料入手できず
		M海域		4.23	5.6×10^{-10}	
	海底土	L海域	$(\text{pCi}/\text{g} \cdot \text{乾})$	4.23	16	
		M海域		4.23	15	
	魚	シラス	$(\text{pCi}/\text{g} \cdot \text{生})$		(注)	
		カレイ		5.14	4	
	貝	コタマガイ				
		アカガイ	4.9	2		
海藻	ヒジキ					
	カジメ	4.21	7			

3. トリチウム濃度測定結果

項目	試料名		採取月日	測定値	備考
陸水	夏海湖水	(pCi/cm ³)	4.7	<5.0×10 ⁻¹	
	瀬沼湖水		4.7	<5.0×10 ⁻¹	
	原研水道原水		5.12	<5.0×10 ⁻¹	
	町宮水道原水		5.12	<5.0×10 ⁻¹	
	北松川水道水		4.7	<5.0×10 ⁻¹	
	北松川井戸水		5.12	<5.0×10 ⁻¹	
	海水		L海区域	4.23	
	M海区域	4.23	<5.0×10 ⁻¹		

4. 放射性核種分析測定結果

(1) 大気中の塵埃

項目	大気中の塵埃					
	ステーション (μCi/cm ³)			降下塵 (mCi/km ²)		
採取地点	No. 1	No. 2	No. 3	原研構内		
分析核種 \ 採取月	4月~6月	4月~6月	4月~6月	4月	5月	6月
⁵⁴ Mn	1.2×10 ⁻¹⁵	1.1×10 ⁻¹⁵	<1.0×10 ⁻¹⁵	3.7×10 ⁻²	3.0×10 ⁻²	3.4×10 ⁻²
⁶⁰ Co	<1.0×10 ⁻¹⁵	<1.0×10 ⁻¹⁵	<1.0×10 ⁻¹⁵	<1.0×10 ⁻²	<1.0×10 ⁻²	<1.0×10 ⁻²
⁹⁵ Zr	3.5×10 ⁻¹⁴	3.4×10 ⁻¹⁴	2.7×10 ⁻¹⁴	15×10 ⁻¹	4.9×10 ⁻¹	6.6×10 ⁻¹
⁹⁵ Nb	6.2×10 ⁻¹⁴	6.4×10 ⁻¹⁴	5.4×10 ⁻¹⁴	31×10 ⁻¹	10×10 ⁻¹	10×10 ⁻¹
¹⁰⁶ Ru	1.6×10 ⁻¹⁴	1.6×10 ⁻¹⁴	1.2×10 ⁻¹⁴	7.0×10 ⁻¹	6.2×10 ⁻¹	6.0×10 ⁻¹
¹³⁷ Cs	2.3×10 ⁻¹⁵	2.5×10 ⁻¹⁵	2.1×10 ⁻¹⁵	10×10 ⁻²	9.1×10 ⁻²	10×10 ⁻²
¹⁴⁴ Ce	3.3×10 ⁻¹⁴	3.3×10 ⁻¹⁴	2.9×10 ⁻¹⁴	14×10 ⁻¹	11×10 ⁻¹	9.3×10 ⁻¹
¹⁰³ Ru	1.7×10 ⁻¹⁴	1.6×10 ⁻¹⁴	<1.0×10 ⁻¹⁴	13×10 ⁻¹	6.7×10 ⁻¹	4.1×10 ⁻¹
¹⁴¹ Ce	<1.0×10 ⁻¹⁴	<1.0×10 ⁻¹⁴	<1.0×10 ⁻¹⁴	5.8×10 ⁻¹	2.8×10 ⁻¹	1.4×10 ⁻¹
備考						

(2) 土壤, 排水口近辺土砂

項目	土 壤 (pCi/g・乾)				排水口近辺土砂 (pCi/g・乾)
	採取地点	飛 沢	下太田	日中内	処 理 場
採取月日	5月14日	5月12日	5月12日	5月12日	海岸放出口
分析核種	5月14日	5月12日	5月12日	5月12日	月 日
⁵⁴ Mn	$< 3.0 \times 10^{-2}$	$< 3.0 \times 10^{-2}$	$< 3.0 \times 10^{-2}$	$< 3.0 \times 10^{-2}$	
⁶⁰ Co	$< 3.0 \times 10^{-2}$	$< 3.0 \times 10^{-2}$	$< 3.0 \times 10^{-2}$	$< 3.0 \times 10^{-2}$	
⁹⁵ Zr	18×10^{-2}	5.4×10^{-2}	9.1×10^{-2}	8.5×10^{-2}	
⁹⁵ Nb	1.8×10^{-1}	1.0×10^{-1}	1.7×10^{-1}	1.2×10^{-1}	
¹⁰⁶ Ru	$< 3.0 \times 10^{-1}$	$< 3.0 \times 10^{-1}$	$< 3.0 \times 10^{-1}$	$< 3.0 \times 10^{-1}$	
¹³⁷ Cs	2.5×10^{-1}	3.3×10^{-1}	3.7×10^{-1}	8.7×10^{-1}	
¹⁴⁴ Ce	$< 3.0 \times 10^{-1}$	$< 3.0 \times 10^{-1}$	$< 3.0 \times 10^{-1}$	$< 3.0 \times 10^{-1}$	

(3) 農畜産物

項目	農 畜 産 物			
	牛 乳 (pCi/cm ³ ・生)	野 菜 (ホーレン草) (pCi/g・生)	精 米 (pCi/g・生)	松 葉 (pCi/g・生)
採取地点	旭村鹿田	旭村田崎	旭村田崎	動燃構内
採取月日	4月16日	4月30日		4月7日
分析核種	4月16日	4月30日		4月7日
⁵⁴ Mn				$< 1.0 \times 10^{-2}$
⁶⁰ Co				$< 1.0 \times 10^{-2}$
⁹⁵ Zr				3.7×10^{-1}
⁹⁵ Nb				6.6×10^{-1}
¹⁰⁶ Ru				5.5×10^{-2}
¹³¹ I	$< 5.0 \times 10^{-3}$	$< 1.0 \times 10^{-2}$		
¹³⁷ Cs	$< 1.0 \times 10^{-2}$	$< 1.0 \times 10^{-2}$		$< 1.0 \times 10^{-2}$
¹⁴⁴ Ce				3.8×10^{-1}

(4) 海水, 海底土

項目	海 水 (pCi/cm ³)		海 底 土 (pCi/g・乾)	
	L 海 域	M 海 域	L 海 域	M 海 域
採取海域	L 海 域	M 海 域	L 海 域	M 海 域
採取月日	4 月 23 日	4 月 23 日	4 月 23 日	4 月 23 日
分析核種				
⁵⁴ Mn	< 5.0 × 10 ⁻⁴	< 5.0 × 10 ⁻⁴	< 3.0 × 10 ⁻²	< 3.0 × 10 ⁻²
⁶⁰ Co	< 5.0 × 10 ⁻⁴	< 5.0 × 10 ⁻⁴	< 3.0 × 10 ⁻²	< 3.0 × 10 ⁻²
⁹⁰ Sr	1.4 × 10 ⁻⁴	1.2 × 10 ⁻³		
⁹⁵ Zr	< 1.0 × 10 ⁻³	< 1.0 × 10 ⁻³	< 5.0 × 10 ⁻²	< 5.0 × 10 ⁻²
⁹⁵ Nb	< 5.0 × 10 ⁻⁴	< 5.0 × 10 ⁻⁴	6.1 × 10 ⁻²	4.8 × 10 ⁻²
¹⁰⁶ Ru	1.1 × 10 ⁻⁴	< 1.0 × 10 ⁻⁴		
¹³⁷ Cs	< 2.0 × 10 ⁻⁴	< 2.0 × 10 ⁻⁴	3.0 × 10 ⁻²	< 3.0 × 10 ⁻²
¹⁴⁴ Ce	< 1.0 × 10 ⁻⁴	< 1.0 × 10 ⁻⁴		

(5) 魚類, 貝類, 海藻類

項目	魚 類 (pCi/g・生)		貝 類 (pCi/g・生)		海 藻 類 (pCi/g・生)	
	シラス	カレイ	コダマガイ	アカガイ	ヒジキ	カジメ
採取地点	大 洗 沖				大 洗 海 岸	
採取月日	月 日	5 月 14 日	月 日	4 月 9 日	4 月 20 日	4 月 21 日
分析核種						
⁵⁴ Mn		< 6.0 × 10 ⁻³		< 6.0 × 10 ⁻³	< 6.0 × 10 ⁻³	< 6.0 × 10 ⁻³
⁶⁰ Co		< 6.0 × 10 ⁻³		< 6.0 × 10 ⁻³	< 6.0 × 10 ⁻³	< 6.0 × 10 ⁻³
⁹⁰ Sr		(注)		< 1.0 × 10 ⁻³	1.9 × 10 ⁻³	2.7 × 10 ⁻³
⁹⁵ Zr		< 1.0 × 10 ⁻²		< 1.0 × 10 ⁻²	4.9 × 10 ⁻²	12 × 10 ⁻²
⁹⁵ Nb		< 0.5 × 10 ⁻²		< 0.5 × 10 ⁻²	6.5 × 10 ⁻²	15 × 10 ⁻²
¹⁰⁶ Ru		(注)		1.7 × 10 ⁻³	9.9 × 10 ⁻³	17 × 10 ⁻³
¹³⁷ Cs		< 6.0 × 10 ⁻³		< 6.0 × 10 ⁻³	< 6.0 × 10 ⁻³	< 6.0 × 10 ⁻³
¹⁴⁴ Ce		(注)		< 2.0 × 10 ⁻²	< 2.0 × 10 ⁻²	5.3 × 10 ⁻²
備 考 (注) 化学分析中につき, 次期四半期に報告予定 シラス「入手できず」						

第4章 保 守

4.1 概 況

今月の自主点検、定期自主点検及び定期検査は以下に示す通りである。

(1) 自主点検

下記の項目について自主点検を実施した。

- (a) 圧縮空気供給系廃ガス処理系圧縮機点検
- (b) 実験炉屋外給排水設備清浄作業
- (c) 「常陽」ボイラ廻り酸欠ガス警報器点検
- (d) 廃液処理設備廃液移送配管漏洩試験
- (e) 2次系煙式L/D点検

(2) 定期自主点検

下記の項目について定期自主点検を実施し、良好であった。

- (a) 原子炉保護系の定期自主検査（7日分）^{注)}

(3) 定期検査

今月は、該当項目はなかった。

注) 原子炉保護系の定期自主検査は原子炉施設保安規定第156条にもとずき毎月1回実施している。

4.2 定期検査

今月の法令にもとづく定期検査はなしである。

4.3 点 検

今月発行した保守報告書は次の通りである。

No.	発行番号	件 名	期 間	担当課
1	原2-55-159	圧縮空気供給系廃ガス処理系圧縮機点検	56, 3, 16 ~3, 18	原2課
2	原2-56-5	実験炉屋外排給水設備清浄作業	56, 6, 11 ~7, 28	〃
3	〃 -11	「常陽」ボイラまわり酸欠ガス警報器点検	56, 6, 24	〃
4	〃 -19	廃液処理設備廃液移送配管漏洩試験	56, 7, 28	〃
5	〃 -26	2次系煙式L/D点検補修	56, 7, 6 ~7, 10	〃

4.4 修理依頼票，異常等報告書

(1) 今月発行した修理依頼票は次の通りである。

No.	発行番号	系統名	件名	発行月日	発行課
1	原1 56 - 44	電源	3A P/C地絡	S 56.7. 3	原1課
2	" 56 - 45	付属空調換気系	真空ポンプ廻り異常	7. 5	"
3	" 56 - 46	使用済燃料貯蔵設備	火災報知器誤動作 (1 F ~ 2 F)	7. 5	"
4	" 56 - 47	㊦ 雰囲気調整系	床下圧力検出器異常	7. 6	"
5	" 56 - 48	1次純化系	純化系各部温度記録計 (TR34・1-3) 乱点	7. 6	"
6	" 56 - 49	2次冷却系	主送風機軸受温度 (Bループ) 記録計ドライワイヤの断線	7. 6	"
7	" 56 - 50	付属空調換気系	A - 604用パッケージエアコン下部より漏水	7. 8	"
8	" 56 - 51	蒸気	(A - 407室) 蓄電池室行蒸気配管安全弁より漏水	7. 9	"
9	" 56 - 52	使用済燃料貯蔵設備	火災報知器誤動作 (B 1 F)	7.10	"
10	" 56 - 53	2次純化系	C/T冷却ブローア入口ダンパー駆動用ポジションナーEX側よりAir漏れ大	7.10	"
11	" 56 - 54	主冷空調	防煙ダンパ動作不良	7.12	"
12	" 56 - 55	補機冷却系	A補給水ポンプグランドシール水フローサイト水漏れ	7.13	"
13	" 56 - 56	1次純化系	純化系Na流量記録計チャート送り不調	7.13	"
14	" 56 - 57	付属空調換気系	(B 92 - 13 B) 吸込ダンパ制御不良	7.13	"
15	" 56 - 58	2次主冷却系	油圧防振器の点検および油補給	7.15	"
16	" 56 - 59	1次主冷却系	原子炉容器液面「低」ANNのため原因究明	7.16	"
17	" 56 - 60	2次主冷却系	2A入口ベーン開度指示異常	7.17	"
18	" 56 - 61	N ₂ ガス供給系	N ₂ ヘッダ出口減圧弁 (V 84 - 607) 圧力セット不調	7.17	"
19	" 56 - 62	㊦ 雰囲気調整系	炉容器ジャケット部(A)還気流量制御ダンパ (DP84 - 47) 制御不良	7.18	"
20	" 56 - 63	補機冷却系	補機系揚水ポンプ(B)下部軸受油漏れ	7.18	"
21	" 56 - 64	"	補機系揚水ポンプ(B)瞬停再起動せず	7.21	"
22	" 56 - 65	㊦ 雰囲気調整系	Aフロン冷凍機遠隔起動不可	7.21	"
23	" 56 - 66	㊦ 雰囲気調整系	Aフロン冷凍機現場操作盤取付潤滑油圧力計指示不良	7.21	"
24	" 56 - 67	予熱N ₂ ガス系	記録計 (TRS71 - 1) の乱点	7.23	"
25	" 56 - 68	計算機	燃料集合体出口Na温度指示不良 (6A2,604)	7.23	"

No.	発行番号	系統名	件名	発行月日	発行課
26	原1 56-69	㊦ 雰囲気調整系	A, B フレオン冷凍機油圧計蒸発圧力計点検依頼	S 56. 7. 23	原1課
27	" 56-70	㊦ 貫通部冷却系	冷却系戻り配管保温材の破損	" 7. 24	"
28	" 56-71	㊦ 雰囲気調整系	格納床下酸素濃度記録計No.2 指示不調	" 7. 25	"
29	" 56-72	1次主冷却系	A ポニーモータCS点検修理	" 7. 27	"
30	" 56-73	1次Arガス系	安全弁(V36・1-62A)リミットスイッチ不良, ANN点灯せず	" 7. 27	"
31	" 56-74	1次ナトリウムサンプリング	サンプリング用グローブBOXの真空引き用バルブ不良	" 7. 27	"
32	" 56-75	㊦ 雰囲気調整系	A フレオン冷凍機ベーンコントロール不良	" 7. 22	"
33	" 56-76	1次補助冷却系	1HX入口, 出口Na 温度記録計指示の振動	" 7. 28	"
34	" 56-77	原子炉保護系	中性子検出器荷重不良	" 7. 28	"
35	" 56-78	建家	遮蔽コンクリート冷却系室入口扉鍵不良	" 7. 31	"
36	56 T-08	屋外給排水設備	消火栓配管漏水補修	" 7. 7	"
37	" T-09	ボイラー設備	主冷浴室天井裏蒸気パイプ腐食蒸気漏れ	" 7. 16	"
38	" T-10	脱塩水供給設備	純水貯槽水位計動作不良	" 7. 22	"
39	原2 56-04	㊦ 雰囲気調整系	床下温度(3C)の動作不良	" 7. 10	原2課
40	" 56-05	㊦ 空調系	ペDESTALブローA振動計指示異常	" 7. 22	"
41	" 56-06	㊦ 雰囲気調整系	フレオン冷凍機A油タンク内温度異常	" 7. 29	"
42	照射 56-8	SFF建家空調設備	SA-3B給気ファンモータ焼損	" 7. 28	照射課
43	放管 56-08	建家	スタック小屋内換気扇の補修	" 7. 10	放管課

(2) 今月発見した異常に関する異常等報告書は、次の通りである。

No.	発行番号	系統名	件名	異常発見月日	発行課
1	原1 56-2	2次主冷却系	主送風機1A, 2Aトリップ	S 56. 7. 1	原1課

4.5 保修報告書

今月発行した保修報告書は、次の通りである。

No.	発行番号	系統名	件名	保修完了 月 日	異常等報 告書番号	担当課
1	原1-56-7	Ⓖ 空調	機器冷却ファンA, Bモータ交換	56. 6. 6		原2課
2	" 56-12	1次Arガス	1次ArガスS/Pポットのクイックコネクター交換	56. 6. 25		"
3	" 56-43	Ⓔ 電源	1号D/Gコンプレッサークランクケース内オイル交換	56. 7. 14		"
4	" 56-44	電 源	No.1 ポリクレンポンプモータ補修	56. 7. 3		"
5	" 56-48	1次純化	レコーダ (TR 34, 1-3) 補修	56. 7. 10		"
6	" 56-50	Ⓕ 空調	A 604用パッケージエアコン補修	56. 7. 10		"
7	" 56-55	補 冷	A 補給水ポンプグランドシール水フローサイト補修	56. 7. 17		"
8	" 56-56	1次純化	Na流量記録計チャート送り用モータ交換	56. 7. 17		"
9	" 56-63	補 冷	補機系揚水ポンプ(B)下部軸受調査	56. 7. 21		"
10	" 56-64	補 冷	B補機系揚水ポンプ調査	56. 7. 21		"
11	" 56-67	予熱N ₂ ガス	レコーダ (TR71-1) 補修	56. 7. 31		"
12	" 56-71	Ⓖ 空調	格内床下酸素濃度記録計 No.2の補修	56. 7. 29		"
13	原2-56-2	Ⓕ 空調	1次Ar ガスバルブ操作室排気ファンB92-7A軸受交換	56. 7. 15		"
14	" 56-4	Ⓖ 空調	床下温度 (3 C) 変換器, モニタスイッチ交換	56. 7. 9		"
15	" 56-5	Ⓖ 空調	ベデスタルブロワA 振動計調整	56. 7. 21		"
16	" 56-6	Ⓖ 空調	フレオン冷凍機CP84-1Aヒータコントロール用温度設定器交換	56. 7. 24		"
17	56-T-6	屋外給排水	消火栓配管漏水補修	56. 7. 18		"
18	放-56-6	監 視	A-518 (ホール)監視用モニタテレビの補修	56. 7. 30		"
19	" 56-8	-	スタック小屋内換気扇の補修	56. 7. 11		"
20	管-56-1	-	駐車場測溝蓋の交換	56. 7. 25		"

4.6 ナトリウム機器の洗浄

今月のナトリウム機器洗浄は、なしである。

第5章 燃料管理

5.1 概要

- 75MW第5サイクル定格運転を継続中である。
- 7月22日、IAEA、科学技術庁の査察が行なわれた。

5.2 燃料移動

- 新燃料の受入
なし
- 新燃料炉内移送（新燃料炉内移送→ラック）
なし
- 使用済燃料の燃料ラックからの取り出し
なし
- 使用済燃料のFMFからの受入れ
なし
- 使用済燃料のFMFへの払出し
なし

5.3 在庫量

- 表5-1に示す。

表5-1 実験炉内在庫量一覧(昭56年7月末現在)

貯蔵場所	核物質質量 国 籍	プルトニウム量 (kg)		濃縮ウラン量 (kg)		劣化ウラン (kg)	貯蔵集合体数 (本)		備 考
		Puf量	Pu total量	U ²³⁵ 量	U total量		炉心燃料	ブランケット燃料	
新燃料貯蔵庫	U.S.A	0.0	0.0	17.21	74.86	470.05	8	炉心燃料	
	U.K	12.93	16.16				0	炉心用特殊燃料	
							9	ブランケット燃料	
							1	ブランケット用特殊燃料	
炉内	U.S.A	27.01	34.32	167.18	761.06	7664.91	82	炉心燃料	
	U.K	98.37	124.83				1	炉心用特殊燃料	
							182	ブランケット燃料	
	USA-UK	21.83	21.96				1	ブランケット用特殊燃料	
使用済燃料貯蔵用水冷却池	U.S.A	11.92	15.05	52.78	234.54	1573.64	19	炉心燃料	○ 炉心19体中 16体は, FMF 返却分 ○ ブランケット 29体中7体は FMF返却分
	U.K	27.51	34.58				7	炉心用特殊燃料	
							29	ブランケット燃料	
	USA-UK	1.75	1.75				5	ブランケット用特殊燃料	

第6章 技術開発

6.1 特性試験

75MW第5サイクル中に以下の測定を実施した。

(1) 運転特性試験

- 燃料係数 7/1 ~ 7/31
燃料係数を測定し、その再現性、経時変化の有無を調べた。
- 純度管理分析 7/1 ~ 7/31
75MW 5サイクルにおける冷却機ナトリウム及びカバーガスアルゴンの純度分析を行った。
- 熱出力較正 7/1, 7/7, 7/14, 7/28
原子炉熱出力による核出力（出力系指示値）の較正を行った。
- 炉雑音測定 7/21, 7/29, 7/31
75MW 5サイクルにおける炉心およびプラント特性の確認及び解明のための測定を行った。

(2) 特殊試験

- 制御棒振動効果測定 7/31
調整棒振動が中性子束及び反応度ゆらぎに与える影響を解析するための測定を行った。
- 空気冷却器最大除熱量確認試験 7/29
2次系Bループで原子炉出力100MW温度条件を作りBループの主冷却器の除熱量を測定することにより100MW出力におけるAループ主冷却器の除熱能力を確認するための試験を行った。

6.2 サーベイランス試験

- 炉容器材（SUS 304）の引張、クリープ、疲れ試験片を反射体位置及び燃料貯蔵ラックで照射中である。（75MW第5サイクル利用）

6.3 照射試験

(1) 照射後試験

照射位置5C3，原子炉出力75MWで1時間照射された燃料中心温度測定用集合体により，運転初期のWear Mark生成を調べるために燃料要素表面の詳細外観検査を実施した。その結果，小さいがWear Markが認められた。また，これまでに照射後試験施設に送られた炉心燃料集合体16体のうち，全ての試験が終了したのは7体である。試験の結果，これら7体はWear Markが一部集合体に見られたが，全体としては健全に使用されていたと確認された。

(2) 照射計画

燃料要素Wear Markの発生に及ぼすワイヤ巻付ピッチとバンドルのPorosity/Ringの効果を調べる改造型燃料集合体の製作開始を8月に控え、各種準備作業が照射装置組立検査施設で実施されている。ワイヤ玉止め部、エントランスノズル/ラップ管溶接部等の施行試験が実施され、基準値を満足した結果が得られた。

6.4 保守技術の開発

1. 塩害モニタリング装置の開発

データ採取実施中

2. タンク内堆積物処理法の開発(含タンク洗浄設備)

技術検討結果を実施に反映する。

3. 放射性廃棄物低減化の検討

低減に関する提案書作成

4. 赤外線カメラを用いた電源設備異常検出法の開発

電源設備における初期データ採取

5. Na 機器洗浄方法の開発

ポンプ洗浄方法の検討

6. アルコール廃液処理技術の開発

水運転によるデータ採取

6.5 運転技術の開発

- (1) フレオン冷凍機トリップ時の、格納容器内温度挙動を試験により確認し、75MW出力運転中においてトリップが発生しても、運転対策上十分時間的余裕があるとの評価結果を得た。

第7章 工 事

7.1 主要工事の概要

- (1) 廃液処理設備蒸気ドレン排水ピット土木工事
土止め工事（シートパイル打ち）

7.2 原子炉規制法関係

今月の原子炉規制法にもとづく手続等の実績は次の通りである。

- (1) 原子炉施設の変更申請

No.	件 名	申 請 番 号	申 請 月 日
	な し		

- (2) 原子炉施設の変更許可

No.	件 名	認 可 番 号	認 可 月 日
	な し		

- (3) 設計及び工事の方法の申請

No.	件 名	申 請 番 号	申 請 月 日
1	格納容器雰囲気調整系冷凍設備の追加設置	56動燃(高速)025	56.7.27

- (4) 設計及び工事の方法の認可

No.	件 名	認 可 番 号	認 可 月 日
	な し		

(5) 使用前検査申請

No.	件名	申請番号	申請月日
1	炉心燃料集合体の一部改造	56動燃(高速)024	56.7.27

(6) 使用前検査

No.	系統名	機器名	検査項目	検査場所	検査期間及び担当官
1	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	缶詰缶	(1)材料検査 (2)溶接部検査 (3)耐圧試験 (4)漏洩試験 (5)外観・寸法検査	7月20日	篠崎検査官
2	原子炉本体	炉心燃料集合体用炉心ペレット	(1)化学分析 (2)外観検査 (3)寸法検査 (4)密度検査 (5)組織検査	7月21日	茂木検査官
		炉心燃料集合体用燃料要素	(1)外観検査 (2)寸法検査 (3)溶接検査 (4)表面汚染検査 (5)漏洩検査 (6)スタック測定試験		

(7) 核燃料物質使用変更申請

No.	件名	申請番号	申請月日
	なし		

(8) 核燃料物質使用変更許可

No.	件名	許可番号	許可月日
	なし		

(9) 施設検査申請

No.	件名	申請番号	申請月日
	なし		

(10) 施設検査

No.	系統名	機器名	検査項目	検査場所	検査規間及び担当者
		なし			

7.3 改造計画書・改造報告書

(1) 改造計画書

今月起案した改造計画書は、次の通りである。

No.	発行番号	系統名	件名	期間(予定)	担当課
1	原2-56-110	一般排水	一般排水設備改造	57. 1. 18 ～ 2. 20	原2課
2	" -111	屋外給排水	屋外給水配管漏洩補修工事	56. 7. 9 ～ 7. 18	"
3	" -112	電源	実験炉第2倉庫工作機械設備電源布設 工事	56. 9. 1 ～ 9. 30	"

(2) 改造報告書

今月発行した改造報告書は、次の通りである。

No.	発行番号	系統名	件名	竣工月日	担当課
1	原2-56-109	⊕ 空調	付属空調系パッケージエアコンドレン配管の改造	56. 6. 30	原2課
2	" -111	屋外給排水	屋外給水配管漏洩補修工事	56. 7. 18	"

第8章 技術資料

8.1 技術報告書

今月発行した報告書は、つぎのとおりである。

番号	件名	資料番号
1	高速実験炉「常陽」性能試験結果(MK-I)の総括	N941-80-179
2	高速実験炉「常陽」格納容器漏洩率試験成果報告(第1分冊) -全体漏洩試験のためのプラント運転-	SN941-81-26
3	「常陽」燃料取扱設備自主点検時の放射線管理	SN944-81-01
4	「常陽」ケーブル火災防止対策工事報告書	N941-81-32
5	「常陽」制御棒駆動機構の保守経験 (保持機構の保持力について)	ZN941-81-64
6	Some Experiences of Fuel Failure Detection System for Japan Experimental Fast Reactor, JOYO	N941-81-99

8.2 運転データ

今月整理した運転データを表8-1に示す。

表 8.1 運転データ・リスト S56.7

名 称	分 類 番 号							備 考	
	施設	系	装置	機器	モード	データ内容課・GI	期 間		
1 1次主冷却系（液面関係）	3	1	1	FB	J	BEA	11	560401-560430	温度・液面・流量
2 1次主冷却系（液面関係）	3	1	1	FB	J	BEA	11	560501-560531	"
3 冷却水分折値データ	7	4	3	-	-	HNE	16	810501-810531	P・H, 電導度, 全鉄
4 "	7	4	3	-	-	HNE	16	810601-810630	"
5 "	7	4	3	-	-	HNE	16	810701-810731	"